

# 安倍改憲NO！ 3000万署名の成功を期して！

～いま、なすべきことは～ 4月8日 パネルディスカッション

「3000万署名オール茨城」主催による、パネルディスカッションが4月8日（日）、土浦市民会館小ホールで開催されました。県平和委員会は、オール茨城の事務局団体として尽力しました。

司会は花山さんと入江君の若・若コンビ。

コーディネーターに田村武夫さん（茨城大学名誉教授・茨城県市民連合、オール茨城事務局長）、パネリストに秋山淳子さん（オール埼玉総行動実行委員会副実行委員長）、佐々木寛さん（新潟国際大学教授・市民連合@新潟・新潟に新しいリーダーを誕生させる会共同代表）でした。

6区市民連合共同代表の尾池弁護士が開会挨拶。「公権力が情報を開示せず、隠蔽し、改竄し、政権に都合のよい政治的結論を出していることが政治の混迷を生み出している。安倍改憲を許さず3000万署名を成功させ、私たちの権利を取りもどそう」と挨拶しました。

挨拶のあと、佐々木寛氏が「安倍政権の本質と新しい政治を考える」としてスピーチしました。1945年8月15日を第一の敗戦、2011年3月11日を第二の敗戦と捉え、その中でひどい政治を行っている安倍政権が高い支持を受けている状況を軽視しないこと、若い人を含め安倍政権を支持している人たちに対して訴えて行く困難性と重要性を提起しました。

秋山淳子氏は「市民運動の展開、連携が新たな民主主義をつくる」として、佐々木氏の8月15日、11年3月11日発言について、「誰も責任を取らなかった」ことを強調してスピーチに入りました。埼玉では、埼玉弁護士会を中心にして労働組合、政党が共同する「オール埼玉総行動」に結集し、この取り組みを通じて現在は15の衆議院選挙区で市民連合が結成されています。その中で経験した新たな市民運動の取り組みも紹介されました。二人のスピーチのあと、コーディネーターの田村さんからパネリストにいく



つかの質問をして回答を頂きました。

休憩中に参加者から3氏に対するそれぞれの質問を集約しました。



「茨城でも新潟のような政治のうねりをつくりだしたい。新潟で原発反対の知事を誕生させた力は」との質問に、佐々木氏は様々な取り組みの苦労を語った後、「オール茨城の運動が成功すれば、企業城下町の状況の中でのフロントランナーになれる」「私たちが『どうしたいか』との思いと、その思いを地域のなかで語り合いながら力を結集する中で作っていける」と述べました。沢山の質問に対してコーディネーター、パネリストからのそれぞれに回答がありました。最後に、集会アピールを採択し、午後4時過ぎ終了しました。参加者は100名ほどと少なかったですが、非常に内容の濃い集会になりました。集会終了後、パネリストを囲んで近くの店で懇親会を行いました。

## 「安・倍・は・や・め・ろ!!」 国会を取り巻く5万人

4月14日 怒りの声 国会周囲に満ち満ちて



4・14国会前大行動。妻と2人で参加してきた。と言うより、人、人、人の波にもまれてきたと言うべきか。こんな大行動に参加したことのない妻は、興奮気味にステージ近くに行きたい、スピーチの主が見たいという思いで中央へ、中央へ。行けばいくほどに身動きが取れない。やっとスペースを見つけ、立ち止まればなんと若者たちのコーナー。リズムカルに楽しそうに「安倍はやめろ」と繰り返す。何だか心の底から共鳴の感情が出てきて私も手拍子で和していた。

見渡せばどの顔の下にもプラカード。それがほとんど「安倍はやめろ」「うそつき内閣」といった怒りの文字ばかり。2015年の「安保法制反対」のときは法案に反対という政策批判が主

だったが、今回は安倍首相自身と安倍政権そのものの否定、拒否という印象が強くて、本当に心の底から怒りが沸騰しているような空気を感じた。もちろんそれは私の気持ちとぴったり合致するものであったことは言うまでもない。

もはや安倍さんは即刻首相を辞めた方がよい。病院に行って脳と神経の検査を受けるもよし、国と国民に重大な不利益を与えた罪を認識して刑務所へ入るもよし、教会か寺に入門し、カウンセリングを受けながら自らの魂の浄化と救済の道を探すもよし。それしかないよ！わからないかなあ、安倍さんよ？！

（平和の会しもつま・事務局長：青木 勇）

5月3日は「2018 憲法フェスティバル」（水戸市千波公園・はなみずき広場）

### 県平和委員会 常任理事会

とき 5月12日（土）午後1時～4時

ところ 県平和委員会事務局

内容 大会議案の討議と仲間づくり

※万障繰り合わせてご出席下さい。



### 平和新聞

2018年4月25日（水）

2167号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会  
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館  
（郵送料月額120円）電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

### 平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 806

2018.4/25

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281  
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

## 「2018年 沖縄連帯と学びのツアー」 一緒に！



今回のツアーは特徴は、学びと連帯行動たっぷりとなっています。予定では、現地に精通している人に語りをお願いしています。

① オール沖縄の闘いを中心に、この秋の県知事選の展望までを、② 名護の共同センターで、辺野古のたたかいと稲嶺前市長時代を語る、という二つの講義を計画しています。

また伊江島では、戦後の島ぐるみ闘争の発端となった乞食行進など阿波根さんのことを伺い、「不屈館」では戦後沖縄史ともいべき亀治郎さんのお話を聞きます。

辺野古訪問では、ゲート前の資材搬入阻止行動と連帯し、併せて海上から埋め立て現場を見ます。そのほか普天間基地を一望できる丘で、米軍上陸地の激戦を含めた説明を受けます。

少し欲張りなツアーで計画していますが、個人では味わえないメニューを用意しています、みなさまのご応募をお待ちしております。

**日程** 6月23日(土) 11時茨城空港発  
6月26日(火) 16時45分茨城空港着予定  
**宿泊** 初日・三日目 名護市内ビジネスホテル  
二日目 名護市内ビジネスホテル  
**参加費** 8万円程度(昼・夕食代別途)  
**申込期限** 5月18日

申込先・問い合わせ： 茨城県平和委員会・つくば市平和委員会  
029-251-2806 (FAXとも) [heiwatsukuba@gmail.com](mailto:heiwatsukuba@gmail.com)

事前説明会 5月20日(日) 予定

(沖縄連帯と学びのツアー茨城実行委員会)

## 憲法フェスティバルの準備進む！

みんなと一緒に参加！ 賛助金も呼びかけよう！



5月3日(木) 水戸市千波湖畔の「花みずき公園」で開催される「5. 3 憲法フェスティバル」の準備が進んでいます。県平和委員会も事務局団体として重要な役割を担っています。

また事前に「憲法川柳」や「9条絵手紙」を募集しています。奮って参加しましょう。

■ 午前中はテント交流企画や模擬店・沖縄物産店・フリマなど・・・

午前中の「テント交流企画」等は10:30から開会。九条の会では「3000万署名交流会」です。公園の真ん中に2張のテントを並べて、県内各地の九条の会取り組みを交流します。「原発NO!」や「健康チェック」「なくせ冤罪」等の企画もあります。さらに「模擬店や沖縄物産店、絵手紙教室、フリマなどもあり、一日楽しめます。

12時からのステージ発表は、「水戸工業高校ジャズバンド」の演奏や、「水戸藩YOSAKOI連」の演技披露は、昨年同様です。

■ 特別企画は、「いま、沖縄から見る戦争法と憲法9条」午後1時から、特別企画として「いま、沖縄から見る戦争法と憲法9条」、瑞慶山茂・ずけやましげる弁護士(沖縄戦国賠訴訟弁護団長)、清水早子・しみずはやこさん(琉球弧の軍事基地化に反対するネットワーク事務局長)のトークがあります。

■ 県平和委員会は「百里基地」と「琉球新報にみる沖縄」のパネル展を担当

県平和委員会は、「百里基地のたたかい」と「琉球新報にみる沖縄のたたかい」のパネルを展示します。同時に手作り「エコクラフト」や「バッグ等の袋小物」の販売もします。

■ 賛助金の獲得を進めると同時に、参加を呼びかけ、一緒に楽しもう！

これらの企画を実現するため「賛助金」が必要です。賛助金は個人1口=1000円、団体は1口=3000円です。もちろん個人・団体ともに何口でも結構です。各平和委員会・平和の会では賛助金を集約進めて頂くと同時に、参加者を募り、多くの仲間と連れ立って参加しましょう。

## 『東海第二原発の再稼働なんて とんでもない!』

小泉純一郎元総理 講演会で、原発は止めよう！



小泉純一郎元首相が、4月14日、県民文化センターで講演しました。東海第二原発の廃炉をめざす「茨城アクション事務局」を中心に、「実行委員会」を結成して実現しました。

小泉氏は、首相在任中は原発が必要だと思っていた。しかし、2011年の東電福島第一原発の事故を経験した後考えが変わったとして、太陽光など自然再生エネルギーへの転換を訴えました。また、「専門家の中には『自動車でも飛行機でも事故は起きる。人も死ぬ。それを乗り越えて技術進む。』などと言う人がいる。国は『世界一安全な基準。』と言う。一方で規制委員会は『絶対に安全だとは申し上げられない』といている。事故はいつでも想定外で起こる。原発事故の悲惨さはそれらと比べられない。原発は止めよう。」と、強調しました。

また「産業廃棄物処理会社をつくる時は、処分場が無ければ許可は下りない。しかし原発は核のごみというべき高レベル放射性廃棄物が出る。この最終処分場がないのに許可されている。おかしい。原発は止めるしかない」と訴えました。

また「国は、原発を重要なベースロード電源というが、13年から15年の間は原発はただの一基も稼働していなかった。その間電気が不足しているとか電力不足による停電はなかった。国が原発を止めると決めればすぐにでも止められる。危険な原発を動かすという意味が解らない」と強調しました。東海第二原発に関しては、「新しい安全協定が結ばれたことは当然だ。40年も経過した危険な原発は、動かすべきでない」と訴えました。